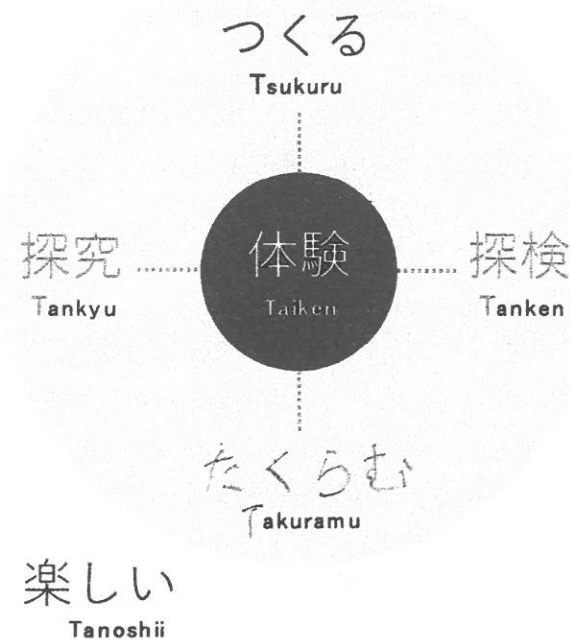


活動の軸は、「体験」を中心に、「探究」「探検」「つくる」「たくらむ」、そして「楽しい」の、6つの「T」から成り立っています。(次頁)



- 具体的な活動としては、
- ・「逗子層」の粘土から縄文土器をつくろう！
 - ・海の水から塩を作ろう！&おにぎりを作って食べよう
 - ・名越緑地でザリガニを釣ろう！
 - ・漂流物を探しに、海へ！
 - ・ペットボトルでみんなが乗れる船を作ろう
 - ・川の源流探検

などの様々な「プロジェクト」を行っています。まなび舎ポートのプロジェクトは、子どもたちのアイデアから生まれます。子どもと大人が同じ目線で話し合う“作戦会議”から生まれることも、やってみたいネタを持ち込んでくれることも。習い事のようなカリキュラムをあえて作らず、子どもたちの主体性を大切にしています。やってみたいと思ったことをやってみる。1人ではなくみんなで、やりとりしながら、工夫しながら進めることで、思いがけない成果が得られることもあります。そんなプロジェクトを重ねながら、子どもたちが自ら考え、学んでいく力を育みます。

まなび舎ポートの現場は子どもたちの元気な声が響く、とにかく活気に満ちた空間です。ご興味・ご関心のある方、ぜひ一度遊びにいらしてくださいね。まなび舎ポート 代表 辻 義和



久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第30号 (準備会から通算第51号)

発行日 令和1年10月5日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・久木会館でラグビーワールドカップを応援しよう・

ラグビーワールドカップの一次予選の日本代表と各国の対戦を久木会館のパブリックビューイングの大画面でみんなで応援しませんか？一人でテレビで観戦するより、家族全員で、地域の多くの人と大声で応援するのはとても楽しいものです。当企画は久木会館の新たな利用の仕方として、地域の住民間の交流を深めるためにも、ラグビー日本代表応援を楽しむためにも久木住民協の新たな試みとして実施するものです。尚、当日はビールの等の飲料、簡単なおつまみも持ち込み可。みんなで応援を楽しみましょう。9月20日の日本 vs ロシア戦はラグビーファンが多数集まり、大いに盛り上がりました。以降9月28日(土)15:45、アイルランド戦、10月5日19:00 サモア戦、10月13日19:45 スコットランド戦 (試合開始の30分前開場時間と致します。)

令和元年9月度役員会

令和元年9月5日(土)13:30~15:30 久木会館
で17名(うち役員12名)が参加して開催されま

した。主な議題は以下の通りです。

(1) 逗子市からの連絡事項

①「逗子市防災訓練」「花火大会について」

防災訓練、花火大会について参加、及び協賛要請があった。

(2) 事務局からの連絡

①一般コミュニティ助成事業(宝くじ社会貢献広報事業)

市民協働課より標記の募集があり、本会としてはカラーコピー機、その他会館備品整備に関して応募申請する予定である旨説明があった。

リックビューイングを行う予定で、9/20は逗子ラグビー協会関係者を招聘して、ルール説明等行い度いとの説明があった。但し、現在手持ちのテレビでは迫力不足と思われ、大画面での対応が必要との意見があった。

②「会館活性化プロジェクト」

会館利用時間、会館利用長期予約、レンタルボックスの見直し等具体的な検討項目についての成果が出ているが、次のステップとしては民間運営の地域会館としての在り方の議論を新しいメンバーを加えて行く方向で検討したい旨説明があった。

④桐ヶ谷市長まちづくりトーク(8/31(土)実施)参加者は20名程度(市からは市長を含め4人)で、子育て関連、交流センターに関する意見交換があった。本住民協からは山の根踏切閉鎖問題につき問題提起したとの説明があった。本件に関連し市民に大きな影響を及ぼす問題はJRが最終判断する問題にせよ、先ず関係市民に事前に知らせ、周到に利益を害される住民の意見を聴取するのが市の責務であるとの意見が出された。

③パブリックビューイング

ラグビーWCに合わせて9/20の日本/ロシア戦から、日本が出場する試合を対象に久木会館でパブ

(3) 審議事項

①各部会代表から、現況報告、全体への協力要請事項等

ふれあい部会：ふれあいサービスは、山の根地区を中心に活動しているが、11月頃に、65歳以上全員を対象とするニーズアンケートを実施する予定である旨報告された。

こども部会：9月のみんなの食堂は20日に開催予定。また、久木小学校前の交通整理は予算がついたが、引き受け手がない状態が続いていて、ボランティア活動で見守りが続いている旨報告された。本件に関して、交通整理員の早期の着任を促す活動を、市民協働課に依頼する事になった。
減災部会：街歩きによる詳細防災地図づくりの活動は、8月25日に久木3丁目で実施した、参加者16名。山の根地区は9月16日の午前と午後を実施、久木7丁目は9月末に実施予定。市防災課に街歩きへの同行参加を要請したところ、スケジュールを前もって提出、予定が合えば参加も可との返答を受けたとの由。議場で地区担当にも同行参

加を要請したが、スケジュールを貰って検討したいとの返答であった。

拠点部会：「会館活性化プロジェクト」と一緒に諸問題を検討している旨報告された。

また市より久木会館を大規模災害時の避難所とする旨連絡があり、今後、避難所運営委員会で使い方などを検討してゆく予定である旨説明された。

②その他

・事務局長より逗子市より入手した地区別のデータを活用して、「住民協ひろば」に特集を企画したい旨説明があった、利用するデータは最新のもつべきとの意見が出された。

・全戸配布の住民協ひろば特集号の募集状況に付き確認があり、無料で久木会館も入れて8件とする事となった。

・事務局長より10月3日に市役所で空家対策に関する行政課題研修が開催され、住民協からも参加可能との連絡がきている旨報告があった。

となる。実施日はまだ決定していないが、早急に決めていきたい。(中村)

*山の根地区は、9月16日(月)午前・午後の2回で全地区のまち歩きを実施した。

*各地域が同様のポスターを作成するため、雛型が必要との意見が出され、鈴木(友)委員が作成し、金子から各委員にメールで送信し使用してもらうこととした。

*意見として、一般の参加者を募ることは限界

があるので、減災地図が作成された後に、各地区で街歩きを行事としておこなうのがいいのではないか。

*行政の協力を必要とする課題であるため、市の安全課だけでなく住民協の担当職員に協力を要請する。

まとめ：遅くとも11月末には全地区の街歩きを終了するよう、進めていく。

編集後記

「在宅医療の現在と今後について」新聞のコラムで驚きを持って読んだコラムがあった。「2025年問題」/団塊の世代が一斉に後期高齢者となることをそう呼ぶ様だが、これから一層社会の高齢化が進むことが叫ばれて久しい。例えば現在でも病院は一般的に高齢者を長期間病院に置きたがらず、在宅医療にシフトしがちな傾向にあり、在宅医療への基調は世の中の高齢化に伴い歯止めの利かない状況になるという。現在でも在宅医療の受け入れ側は看護師の不足、家族による介護体制にも十分手が廻らず大きな社会問題になりつつあり、資金の十分に備えた富裕層は別として、多くの世帯が疲弊し、社会が大きな問題を抱える事になる。地域を含めた社会全体で考えなければならない問題がまた、クローズアップされる。寿命100歳時代と言われる中、住民協の抱える問題解決の課題は多い。

事務局長 石井達郎

部会報告

ふれあい部会報告(8・28) 龍村敦子

山の根自治会で65歳以上高齢者を対象にしたアンケートを実施することになり、住民協の他自治会町内会でも応用されるなら参考までにと部会の意見もいただきました。22項目の質問で、これから有償のふれあいサービスを充実させるにあたっての高齢者の意識調査のようなアンケートです。中には災害時の設問もあるので、ふれあいサービスそのものだけではなく地域住民の今後の課題調査という少し広

い視野にも立っています。9月に班長さんに説明、10月開始、11月取りまとめとなり、12月から調査結果にもとづいて紐解いていくこととなります。全く初めてのことでですから、回収率もふくめてどのような反響がくるのか心配ではありますが、やってみなくちゃ始まらないので色々な意味で乞うご期待です。アンケート作成の検討から中部包括支援センターや社協職員に何くれとなくサポートしてもらっています。住民と専門機関と一緒に動く、これがこれからの住民自治です。

減災部会報告(8・24) 金子春夫

出席者：鈴木(友)、鈴木(昌)、鈴木(為)、中村、新倉、眞下、森戸、山下、金子
開催日時・場所：8月24日(土)10:00~11:30 久木会館

部会討議事項及び期間の実施事項は次の通り。

1. 街歩きについて

*8月25日に、久木3丁目の街歩きをおこなった。15:00に3丁目の「読売新聞販売所」集合の後、3丁目町内会会長の福島さんが先導

し、17名が参加した。住民協から新倉、石井(達)、鈴木(為)、鈴木(友)、森戸、金子、田倉、眞下が参加した。

また、4~9丁目も町内会会長に実施を要請してあり、7丁目が9月29日(日)10:00に旧松阪屋前集合で実施が決まった。

*逗子ハイランド地区は、10ブロックがあるため1回2ブロックを歩いても、5日間が必要

連載 【グループ紹介】 第15回 《まなび舎ぼーと》

まなび舎ボートは、放課後の時間、1人ひとりの“個性”と“ありのまま”を伸ばし、“自らの未来を切りひらく力”を育む、小学生の探究型・プロジェクト学習型アフタースクールです。

2017年4月よりスタートし、現在3年目です。久木3丁目で毎週月・水曜の放課後に活動。現在は小学校1~4年生を中心に、約30名の子どもたちが来てくれています。久木小の児童が多いですが、逗子小や小坪小、鎌倉から来てくれている子もいます。

「まなび舎」という名前ですが、従来型の学習塾ではありません。なぜなら“まなび舎ボート”の学びは、机に向かうことはほとんどしないからです。外に飛び出して五感をフルにつかって体感し、本物に触れ、想像し、対話し、ときにはつくり、表現する。学びとは本来、楽しいもの。誰かにやらされるのではなく、制約を受けるでもなく。色々なスタイルで、遊ぶように学んでいきます。

放課後、子どもたちが「ぼーっと」できる余白のある居場所。やりたいことや学びたいことを見つけたら、とことん「没頭」できる空間と時間。手漕ぎ「ボート」のように、大海原へ自分の力でこぎ出でていけるような、そんな知恵や主体性を育てていくことができる学び舎。”まなび舎ボート”は、そんな場所をめざしています。

子どもたちが持つ個性や可能性は1人ひとりちがっていて、そして無限の可能性に満ちています。私たちは、子どもたちの“ありのまま”を伸ばし、“自らの未来をよりよく生きる力”を育みます。